



園だより

2022年2学期の終わりに

園長 尾藤 浩美

すくすく

のびのび

ふじやまだい

「この味がいいね」と君が言ったから 七月六日はササタ記念日

一九八七年歌集としては異例のヒット・ベストセラーとなった懐万智さんの「ササタ記念日」の一首です。懐さんは「今はいいねの数を競うような風潮があるけれど、これはたった一つのいいねで幸せになれるという歌です」とつぶやき、SNSでいいねが評価される現代社会と比較しながら改めてこの一首を紹介されることを目にしました。初めてこの歌が私の心に届いたのは、ちまづと北海道での結婚生活が始まり、藤山台幼稚園から遠く離れた中標津町の保育園で仕事もスタートした頃でした。慣れない土地、慣れない職場、焦りのような感情を仕事を終え、帰宅した主人にぶつけてしまつても少なくなかつたかと思えます。そんな不安な日々を過ごす中、この一首に出会いました。私の料理を「おいしい」と食べてくれる主人に対し、この一首に共感できたことで、出会う頃、結婚を決めた時の、ピエアでちまづとキョウキョウする気持ち

を取り戻せたようはうれしい感賞を思ひ出すことができました。なんだか
のうけているようでごめんなさい。

懐万智さんには三歳の頃お気に入り絵本がありました。藤山台幼稚
園の子どもたちも大好きなロビキのやがのがらどんとです。懐さんは毎日
お母さんに「読んで」とせがみ、一年ほどたったある日「チョッキン・バチン・ストーン
はほしほ、おしまい」まで一語半句間遠くずにそらんずることで喜んだという
逸話。懐さんの言葉と生業（なつわい）とくれるとの後の人生にこの体験は少な
からず影響を与えたこと。絵本や読みかきの魅力と共に「ふんかなり」の
生活発表会の幕間にお話した記憶があるのですが……お子さんと絵本
と共有できる時間はそんなには長く続かないように思います。絵本がもつる
力を惜りて、いの栄養を届ける子育て、この場を、お借りしてもう一度
ぜひ、おすめあさせてください。

「親子という言葉を見るたびに、子どもはよく親の側なる自分に気づく」
子どもが生まれて一番変わったこと、それは「親」という視点が自分に加わったと、
心の空にがはとの増えました。

「自分の時間ほしくないと問われれば自分の時間をこの子と過ごす」
仕事や趣味も大事だけれど代わりがない自分が必要とされること。
「たんぽぽの綿毛を吹いて見せてやる、いつかおまえも飛んでゆくから」
子どもとの時間は期限？その赤ん坊のようだが、と思ふことでもあります。

雑誌「Q」より 俵万智 歌人

三つの歌とその横に、俵さんがええられた文、私は子どもたちが小さい頃を思い出して
保護者の皆さんも共感するものがあるのではあと思ひ、紹介させて
いただきました。私の82年にばる母も、ついでの前まで短歌を詠むことか
唯一の趣味でした。短歌仲内の集まりに電車に乗って出かけた。母子
作りを仲間と楽しんだり、短歌を詠むことは母個人の行いですが、同じ
短歌を趣味とする方にちと、お互いに認め合い、共感することか、心地良

時間だったと思います。先日、二度目の転倒をして足のつけ根を骨折してしまいました。幸わい前回の骨折と違い、手術は必要なく、入院が長引き、動かすのが助かなくなってしまうほどののが良くないと、痛みが10/8には短かい期間の入院で帰るべきことができました。退院時は車イスを借りないと移動できませんでしたが、家に戻りつえだけで立てた時、
「あーいー、立てたねー」がんばって、と杖に大きな文字を書きつけて見せると、老眼鏡を取るほいほいと指さし、聴かぬ視力もかなりおとろえてしまったことと目の当りにして娘の私は少し悲しかったので、大きな書いたその文字を目で追いつ終った時の老眼鏡の奥の瞳の輝き、にっこり笑ってくれた表情に、自分のがんばりを認めてもらうことのうれしさを、ええ感じ取ってくれた母の様子に、私もパワーをもらうことができました。言葉もたくさん覚えることも減ってしまった今、短かい言葉に思いを込める短歌作りに取り組める日が戻ってくることをいいね…と願っています。

私は最後の園だよりと作るころで、藤山台幼稚園の大好きなところを
お伝えしたいと、元と元の言葉は等身大であることを信条として書き進めて
いきます。懐きの言葉葉母との取近の園わりの様子を通して、共感すること
認めもこの大切さをお伝えできているはず……元と元の藤山台幼稚園の保育
の中で大好きなところですか。子どもたちの思いを大切にして、まずは共感すること
から援助を考えたいと、元として一生懸命がんばったこと、がんばったこと、乗り
こえたこと、決して乗りこえられなくても、元と元ががんばったことをよく見とて
認め、こと、小さな変化を見逃さず、気づくこと、元として考えに援助が一人
のお子さんになる、おさん自身が前に進むパワーにしていく、元は保育
とすること、大好きな藤山台幼稚園の保育が、心からと振られていく
ことを願っています。

「のびのび、ソラソラとした幼稚園時代は一生の宝物です」主任としての仕事
が始まり、園のパンフレットを新しくあることになり、一番大切に考えた言葉です。

園の。パンレットは何度も更新されていますが、藤山台幼稚園の保育の
根幹を支える文章として変わらず、そしてこれからも変えずに大切に
いつてほしいと思っております。藤山台幼稚園の大好きなところ、自園給食
スモック、園章、果樹園、花壇、遊具……形あるものだけでもあ
げさせていただきます。パンレットの中に大好きなところはできるだけご紹介し
にもひめて更新してきました。お手元に届いているパンレット、どうぞ
また折を見て読んでいただければ幸いです。

今から七年前になると思いますが、現在中学一年生になる卒園児の保
護者の方たちが、卒園時に園の職員みんなにプレゼントしてくださった冊子
が現在のパンレットの原形になっています。その冊子の目取後に感謝状
という形式で保護者の皆さんが藤山台幼稚園への思いをたくさん残していそ
くだきました。

・夫が親身になって子どもとも親とも向き合ってくれる

・子どもの個性を受け止めて見守ってくれる

・夫が温かく見守ってくれるので失敗を怖がらずチャレンジができる

・自由に遊ばせる中でお友だちと気遣う優しさや自分を奮い立たせる力

・夏休み休みにはよく早くもつらんに行きたいなとお休日は嫌いだなし

・とよく言っていました。幼稚園が大好きな場所だと思っていました

・藤山台幼稚園をたくさん遊んでしっかり認めてもらえたからこれ色々

やっせたいという感じが育って来ました

・不安が大きい子どもを受け入れてくれる

・優しいのが幼稚園全体にあふれていて子どもたちが元気に成長していく

・この栄養にはなっているんだと感じています。B4の用紙5枚以上に

感謝状のほんの一部ですが、保護者の皆様と共有することを、私の

書き込みのない藤山台幼稚園への思いのお伝えとして送らせて

いただきます。在園児保護者の皆様には、退職にあたり、

「ありがとうの会」のお招きを、役員さんからいただいたにもおかげです。

ご無礼をお許しくださう。子どもたちには明日からの冬休み・クリスマスやお正月。そして三学期のスタートが楽しみをきく。今日の終業式になることを新体制となる大生方にお願ひしました。式はいつも伝えていた

「早寝早起き、朝ごはん」を家庭で大切にしていただけたらうれしいです。至らばかったこと、やろいねなかつたこと、たくさん残したままの退職に対して「グッセー」を集めというご協力をいただいたことを深く感謝申し上げます。感謝状と共に、ひさりの私の人生において大々は支えとびることは間違ひなく、大切に受け取らせていただきます。大変お世話になりました。

変異株の出現が次から次に続く中、子育てに待たはありませぬ。どうか保護者の比身まも体調にご留意され、ご家族よろうてよいお年をお迎えください。来々筆になりましたが、お子さんの健やかな成長を来々願ひしています。

おわりに

藤山台幼稚園の愛しいお子さんたち

えれがれの豊かな個性を、色とりどりのハートで表わし、園のシンボルである藤の花の園章を囲み、各々のカラーで輝きを放つ。そして交わることで更にきれいな色になる。そんな素敵なお友だちと作っていただきました。二十年という時間を、大好きな園歌とともに藤山台幼稚園で過ごすことができました。ありがとうございました。

二〇二二年 二月二日

園長 辰藤 浩美



藤山台幼稚園 園歌

あかるいひかりが あふれてる
なかよしともだち うれしいな
げんきいっぱい かけようよ
みんなだいすき
ふじやまだいようちえん

みどりのかぜも ふいてくる
やさしいせんせい うれしいな
こえ あわせ うたおうよ
みんなだいすき
ふじやまだいようちえん

おそらにむかって のびようよ
にじのかけはし のぼろうよ
てをつなぎ すすもうよ
みんなだいすき
ふじやまだいようちえん